

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			利用児童の実態に合わせて、年度途中で動的、静的活動のエリア分けを行った。
	② 職員の配置数は適切であるか	○			子ども同士(集団)でも遊べるように促している。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか			○	業務改善を進めているが、管理職が中心となってしまっている
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			回答率を上げる為に、今年度よりweb上で回答出来るようにシステムを導入した。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価を行っていない為、保育実習やソーシャルワーク実習、高校生のフィールドワーク等を積極的に受け入れ、風通しの良い事業所を目指している。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		新人研修を、新人一人に対して、中堅職員を指導係として一人配置する形で行っている。外部研修への派遣は一部の職員のみとなった為、次年度は一人一回以上の研修派遣と、内部研修を企画し、職員の資質向上を目指す。
適切な 支援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			面談時や日々の療育時の様子、学校等の関係機関と連携し児童のアセスメントをしている。また、主観的評価にならないように児発管、担当職員以外の職員の評価も取り入れるようにしている。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	客観的評価を行うためのアセスメントツールを導入出来ていなかった為、次年度より放デイガイドラインで推奨されている「vineland2適応行動尺度」によるアセスメントの実施を行っていく。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			週初めに活動プログラムについての打ち合わせを行っている。また児童の実態に合わせて臨機応変にプログラムを変更している。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		児童の意見も聞いて活動プログラムを組み立てている。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			主に長期休暇を活用して地域資源、人材の活用を図り地域交流に取り組んできた。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			集団活動は利用児の構成を考慮して計画を行った
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		毎回ではないが、必要に応じて活動内容の確認や共有は行うようになってきた。
⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		児童の様子や支援内容について、自然発生的に共有する時間が発生している。送迎時間やその他業務の兼ね合いで、必ずしも当日中に行えているわけではない。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の支援記録からも児童の実態把握を行い、個別支援計画に関連づけている。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○				
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○				
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○				今年度はサービス担当者会議が行われていないが、開催された際には児発管や担当職員が参画することとする。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○				児童が所属するそれぞれの学校のHPから、年間行事予定表を確認しカレンダーにまとめている。また、保護者からの事前連絡を中心に対応することができた。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○			
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○				法人内の地域連携支援会議等を活用して取り組んできた。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○		学校を卒業した児童がまだいないが、移行支援は積極的に行っていきたい。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○				
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○				体験活動の地域交流として、近隣公園での活動で地域の子どもたち遊ぶ機会を設けた。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○				児童発達支援管理責任者が参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○				HUG、LINE、送迎時等を活用して共通理解を図ることができた。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○		ペアレントトレーニングの必要性を感じており、ペアレントトレーニングを行う際のファシリテーター養成の為、研修の派遣を目標とする。 実施は出来なかったが、子どもの支援内容を手立ても含め変容を伝えることで、ペアレントトレーニングの視点をもって対応することができた。
	保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
		㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
		㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	

	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○		苦情の内容について直ちに状況把握と課題整理を行い、今後の対応について検討している。児童や保護者に周知が出来ていない為、今後の改善目標とする。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			
	③⑥	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			お伝えする内容に応じて、電話やLINE、HUG、紙面といった媒体を選んでいる。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			地域住民を対象とした子育てサロンを開催している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			○	各種マニュアルについて策定しているが、保護者に周知できていない。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回避難訓練を行っている。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか				年に1回、法人単位で虐待防止研修を行っている。また年度初めに虐待防止マニュアルや倫理綱領の読み合せを行っている。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			○	基本的に身体拘束は行わないように日々の支援を行っている。今後も同様の方針で支援を行うが、緊急的に身体拘束を行う場合の説明を、丁寧にやっていきたい。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか			○	

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。